

問題一 次の①～⑩は名詞である。訓読みを記せ。ただし、常用漢字音訓表に載っている訓読みとする。

- ① 虞 ② 際 ③ 敵 ④ 縁 ⑤ 業 ⑥ 懐 ⑦ 滴 ⑧ 脂 ⑨ 旨 ⑩ 塊

問題二 漢字の熟語は主に次の五つの関係で成り立っている。

- A、主述の関係（上の漢字が主語で、下の漢字が述語。「日没」「国営」など）  
 B、並列の関係（意味の似た字、あるいは反対の字を結合。「兄弟」「左右」など）  
 C、修飾の関係（上の漢字が下の漢字を修飾する。「自動」「美女」など）  
 D、補足の関係（述語が、下に補語か目的語を伴う。「登山」「読書」など）  
 E、認定の関係（上または下に特定の漢字を用いるもの。「不定」「未来」など）
- では、次の1～10の熟語は、A～Eのどれに該当するか。符号で答えよ。

- 1 無能 2 別離 3 年長 4 就職 5 青空  
 6 地震 7 偶然 8 除雪 9 伸縮 10 最初

問題三 次の各文中の傍線を施した語の品詞名を後にあげたA～Hの中から選び、符号で答えよ。

- 1 もしもし、オレだよ、オレ。 2 今は金がない。 3 ある程度なら貸せる。  
 4 まあ、素敵。 5 必ずしも成功するとは限らない。 6 やれるだけやろう。  
 7 ドイツからのお帰りは来月ですか。 8 山また山を越えて行く。  
 9 彼はもったいぶるところがあるので嫌いだ。 10 飛ぶように売れた。

- A 形容動詞 B 形容詞 C 名詞 D 副詞 E 接続詞  
 F 感動詞 G 連体詞 H 助動詞 I 助詞 J 動詞

問題四 次の各組の五つの短文の中には誤字の無い文が一つずつある。その文を選び、番号で答えよ。

- A 1 上司の感心を買う。 2 非難訓練に参加した。  
 3 それこそ無上の喜びです。 4 着物は日本の民俗衣装です。  
 5 気を引き絞める。  
 B 1 髪を無造作に束ねる。 2 脅迫観念にとられる。  
 3 体力の局限に挑戦する。 4 この場所に駐車すると、通行の疎外となる。  
 5 意見は平衡したまま閉会した。  
 C 1 木っ葉みじんに吹き飛んだ。 2 生活共同組合で日用品を買う。  
 3 けちと儉約は似て非なるものだ。 4 漢字仮名混じり文を書く。  
 5 彼女は懐古録を執筆中である。  
 D 1 振るって参加してください。 2 国会解散になる公算が強い。  
 3 とことん真理を追究する。 4 彼は時期を失した。  
 5 一番得意なのは機械体操である。  
 E 1 彼女は飛び上がって喜んだ。 2 大声でどなったら気が澄んだ。  
 3 列車の侵入方向にご注意ください。 4 離し飼いの馬  
 5 公園の池の周りを回る。

問題五 次は、高村光太郎の「鯨」という詩である。読んで、後の問に答えよ。

① 盥の中でぴしやりとはねる音がする。

② 夜が更けると小刀の刃が冴える。

③ 木を削るのは冬の夜の北風の為事である。

④ 暖炉に入れる石炭が無くなっても、

鯨よ、

⑤ お前は氷の下でむしろ莫大な夢を喰ふか。

檜の木片は私の眷属、

智恵子は貧に驚かない。

鯨よ、お前の鰭に剣があり、

お前の尻尾に触覚があり、お前の鰓に黒金の覆輪があり、  
さうしてお前の楽天にそんな石頭があるといふのは、

⑥ 何と面白い私の為事への挨拶であらう。

風が落ちて板の間に蘭の香ひがする。

智恵子は寝た。

私は彫りかけの鯨を傍へ押しやり、

研水を新しくして

更に鋭い明日の小刀を瀏瀏と研ぐ。

⑦ 眷属：一族、親族、仲間。／覆輪：ここでは「鯨の鰓のふち」のこと。／瀏瀏：清く冴えて滑らかな様。

問一 傍線部①～⑤の意味として適したものをそれぞれA～Dの中から一つずつ選び、符号で答えよ。

① A 深夜になると周囲が静寂になり、木を彫る小刀の微かな音が鋭く響いてくるようになる。

B 深夜になると気が散らなくなり、研ぎ込まれた小刀の刃がますます鋭く、切れ味が良くなる。

C 夜が更けるにつれ、創作意欲が一層高まり、小刀で切込む一回一回に力がこもるようになる。

D 夜が更けるにつれ、小刀の刃に当たる電灯の光がますます冴えわたるようになる。

② A 夜の北風に、木と木が擦れて削れる。 B 北風を聞きながら、冴えた刃で木を削っている。

C 木を削るのは北風に任せ、鯨を見ている。 D 北風が寒いので、木を燃やして暖をとる。

③ A お前は冷たい氷の下にあっても、暖かい春の訪れる夢を見続けているのだろうか。

B お前は冷たい氷の下にあっても、その大きな口で空々漠々とした夢を喰っているのだろうか。

C お前は冷たい氷の下にあっても、常に希望を失わず、楽天的な夢を見続けているのだろうか。

D お前は冷たい氷の下にいるからこそ、大きな将来の夢をうっとりとしているのであろうか。

④ A 石頭のお前が楽天的なのは、 B お前の頭のとっぺんに石頭がのっかっているのは、

C お前は楽天家だが、そんな堅い頭をもっているのは、 D お前が楽々と石頭をのせてるのは、

⑤ A 鯨が身体全体を用いておどけた様子をし、私に挨拶するようなしぐさで、私を楽しませる。

B 鯨の身体全てが、私に造詣への関心をかきたたせ、彫刻の仕事させようように仕向けてくる。

C 鯨の身体・格好は何とも無様で、私を心から愉快にさせ、仕事への意欲をかきたたせてくれる。

D 鯨は、私が彫刻をしている側にあつて、いつもユーモアをただよわせ、私の心をなごませる。

問二 詩の中に「私の為事」という語句がでてくるが、それは何か。次から選び、符号で答えよ。

A、鯨を彫ること。 イ、鯨を描くこと。 ウ、鯨を育てること。 エ、鯨を詩にうたうこと。

問三 詩の中から、次のそれぞれに該当する箇所を書き抜け。

A 作者の境遇が最もよく表れている箇所

B 作者の、為事（仕事）に対する愛情が最もよく表れている箇所

問四 この詩について当てはまるものを次の中から二つ選び、符号で答えよ。

- 1 叙景詩      2 叙事詩      3 叙情詩      4 劇詩      5 散文詩      6 自由詩